



シンデレラ夢 '97の「かぼちゃ栽培」を道新の記事で知る。

さっそく応募し 実行委員の菊地さんがつめた種子が送られてきた。感謝育苗、栽培管理の手引を参考に 栽培に専念。

グラウンドの横に縦7.2m、横3.6mの防風ネットで囲った畑を造る。

芝生をおこし、砂利混じりの土に 牛糞の堆肥と配合肥料をたっぷり入れた。

7月中旬、暖かい太陽の恵を受けて 茎を伸ばし、葉を広げ、実も ぐんぐんと大きくなる。目に見えて成長する様子に 子どもたちはただただ感動する。

寒冷で海霧が多く日照時間が少ないなど 自然状況の劣悪な下で、たくましく成育する生命力に感動。

一抱えほどの大きさになった8月上旬、ぴたりと成長が止まる。

長雨が続いたせいかな 気温が低いせいかな 肥料不足か 3~4日気になる。

なんと、かぼちゃ自身の大きさと重さで茎に無理をかけ、裂け目ができている。

これ以上の亀裂を避ける手当をしたが、その後の成育はかんばしくない。

栽培技術の未熟さが 取り返しのできない事故を招くことになり、「かぼちゃ」にもうしわけない。

それでも この地域では見ることができない ジャンボな「かぼちゃ」に育ち、子ども、父母、地域の人たちに 驚きと感動を与えてくれました。

\* 平成9年9月16日 収穫 75kg



ジャンボカボチャとおもちゃかぼちゃ

プレイルームに展示しました。  
地域の産業祭にも出品する予定。





## 「おもちゃかぼちゃ」

いろいろな形、色、模様のかぼちゃができました。

9種類、約300個。

1年生、2年生に一人3個ずつ分けました。

幼稚園にもあげました。



小さな種から大きな夢が膨らむ

札幌市 伊辺 清（五十一歳）

今年はナス、トマトなどの野菜には少し遠慮してもらい、できるだけ広い面積をカボチャに当てることにしました。でも三本植えるのが限度の狭い畑です。中央は私の一本、右側に妻、左には娘の一本と話をまとめて、我が家の夢を乗せた三本のカボチャづくりが始まりました。

昨秋、土づくりからスタートした一年をかけての大レース。絶対に失敗は許されない。失敗すれば一年間を無駄にする。皆んな真剣です。

六月に定植された三本のカボチャは、それぞれの期待を一心に、ぐんぐん目に見えるほどの成長をしています。毎日の天気が気にな

ります。太陽のありがたさ、日照りの後の雨のありがたさ、こんな  
に大自然の恵みに感謝した日々があつたでしょう。改めて物を育  
てることのすばらしさ、農業の尊さを実感しました。夜明けとともに  
に我先とカボチャ畑に走る毎日です。いつしか家族の会話はカボチ  
ヤ畑になつていました。

七月に入る頃には、お互いに自分のが勝つていゝと思ひながらも  
相手の成育ぶりが気になつて、手入れの仕方については皆んな無口  
であります。最も管理の大切な時期であり、目が離せません。右を  
見ても左を見てもきちんとして整枝され、手入れが行き届いています。  
こうなると家にいる時間の長い妻が一番有利であります。でも負  
けるわけにはいきません。誰にも気づかれないように自分だけの隠  
しエサ（肥料）を与えていました。

そんなある日、最有力候補の右の一本、妻のであります。水不

足のような全体がしおれてリタイヤ寸前であります。一日も欠かさずいっぱいの愛情をかけ、なめるように大切に育ててきた妻はシヨツクで呆然としています。

乾燥を防ぐため根元には枯れ草を敷き、水分も充分のようです。親づるも子づるもいたんではいません。根元の枯れ草を開いてみると、なんとカボチャの根が土の上に出ているのです。泣き出しそうな妻の目は完全に二人を疑っているようです。静かに枯れ草を取り除いてみてまたびつくり。なんとそこには掘り起こされた土の山と大きなネズミの穴だらけ。どうしてこの一本だけがこんなひどいことに……。娘と私は黙つてきれいに埋め戻し、遮光ネットで日よけをしていると、妻がポツリと「あれが悪かったのかなあ」と言うのである。よく聞いてみると自分だけの隠しエサとして魚のアラを煮出し、それを根元へ与えていたらしいのです。

ネズミちゃんの大好物である。遠からず我が家のタマチちゃん（猫）だつて嗅ぎつけて彫り始めるだろうと大笑いです。この時点で私と娘は勝つたと確信を得たのであります。

いよいよ一年をかけた大レースもゴールに近づいた八月、やはり私のシンデレラ（カボチャ）が一番、次いで娘のであります。妻のはネズミのせいで着果が遅れた分小さいけれど、オレンジの鮮やかな色で形も良い。娘のは形は良いが色が出ません。それにヘソの部分がひっこんで平らかなカボチャで、どうやら成長も止まっているようです。これであと一ヶ月余り、油断は出来ないがどうやら家長としての面目を立てることが出来ました。

早朝の足取りも軽く見廻っていましたが、どうも果実から先のつるが無駄に見えて仕方がありません。それに養分が皆つるに行つていくかのごとく元気良く伸びているのです。今となつてはつるより

も果実が大きくなってほしいのです。

そこで自分なりに考えたあげく、玉より先のつるを切り取ることにしました。翌朝、何としたことでしよう、つるの節々が割れていくのです。その次の日には果実の付け根部分にもヒビ割れが入ってしまったのです。あまりにもひどいところは包帯を巻いてみました。がだめなんです。成長が完全に止まってしまいました。

右のネズミちゃんは立ち直りも早く魚のアラが効いたのか、ぐんぐん大きくなっていきます。もしかしたら負けるかも？

そして九月、残念ながら完敗です。ネズミにやられたあの妻の力ポチャが色も良く美形で、大きさも目を見張るばかりで、胴回りを測ってみるとニメートルを超える見事なものです。こうなるともう三人のリースどころではありません。三人の夢は右側の一個に集中したかのごとく、朝昼晩と見廻り、皆んなで声をかけてやりました。



明日は待ちに待ったサロマ町のシンデレラ夢まつり。私たち家族と周りの人たちの夢と感動をいっぱいに詰め込んだ大きなカボチャの晴れ舞台。果たして一年間にも及ぶ長い長い大レースのゴールには、どんな出会いとふれあいがあるのだろうかと胸がおどります。

近所の皆さん、親戚の方々、会社の皆さんなど大勢の人たちに見送られてのサロマ町でした。

快晴の青空の下、見事に設営された大舞台。お年寄りから子供達まで町民一丸となったシンデレラ夢まつり。楽しそうな皆さんの素敵な笑顔。道を聞いても、買い物をしても親切にあふれていました。機敏に大会運営をする実行委員会の皆さん。すばらしい皆さんの人柄に触れて、さわやかな空気とともにサロマ町の真の魅力を全身で味わうことが出来ました。

それに加え、大変なことに我がシンデレラ（カボチャ）が見事に

グランプリ賞に輝いたのであります。それはもう感激で何がなんだか分からないほどの喜びでいっぱいでありました。

この感動をぜひとも多くの皆さんに知っていただき、このすてきなまち、サロマ町の魅力を一人でも多くの方に伝えたいと思います。

一、サロマ町の皆さん、素敵な思い出をありがとうございます。

二、サロマ町の皆さん、職業も地域も越えた人のつながりをありがとうございます。

三、シンデレラ夢まつり実行委員会の皆さん、夢と感動をありがとうございます。



